

## 塩気を失わないために

西南学院大学神学部長 日原 広志 (福岡有田教会)

主の御名を賛美します。いつも西南学院大学の神学教育のために祈り覚えてくださりありがとうございます。尊き奨学金をはじめ、今年は物価高騰の続く中、神学生の栄養事情に配慮しての寮への物資のご提供などもあり、有形無形のお支えに教授会・神学生一同深く感謝しております。

夏の全国壮年大会「これから No Border な教会の話をしよう！～教会が「教会」であり続けるために～」では、バプテストの原点に立ち返る有益な示唆と交わりをいただきました。自分なりに「教会が“塩気”を喪わないために」として反芻しながら、「『地の塩、世の光』であって『世の塩、地の光』でないのは何故だろう」「西南学院大学神学部の“塩気”とはやはり教派神学校であること、連盟全国諸教会伝道所の祈りのみを根拠に存立する神学部である点に尽きる」などと思い巡らせていました。

神学が教会の学問であり続けるために、この秋も連盟関係者に各種集会にご助力を賜りました。10月20日には佐々木和之先生（ルワンダ・プロテスタント大学）ロングチャペル「私たちの信仰と暴力・非暴力ルワンダとパレスチナの虐殺から問われていること～」でルワンダの困難な現状と、直接的・構造的・文化的な三つの暴力に抗して平和を構築する必要について学びました。翌週には神学部ミッションデーに江原美歌子先生（NewSong企画）をお招きし、講演「賛美歌ってどんな歌？」と賛美歌ワークショップ「『みんなのさんびか1』ってどんな歌集？」を通じて世界の新しい賛美歌の意義について学びました。

11月17日には神学部公開シンポジウム「『戦後80年』を考える」を開催し、三教員の発題（神学部黄南徳先生「敗戦後80年を考える」、国際文化学部伊藤慎二先生「身近な戦争遺跡からたどる80年前の空気」、法学部田村元彦先生「ポスト・コロナの老いと成熟の平和」）から、会場・オンラインの52名の参加者を交えて、排外主義的な歴史修正の言説がネットに溢れ、新しい「戦前」の状況に突入しつつある状況下で、「戦後80年」という枠づけ自体を疑い、東アジアの戦争をめぐる過去の歴史と現在、そしてこれから平和構築について考えました。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。在主。



2025年11月現在の神学生奨学金・会費実績および対前年度比較

地方連合名	神学生奨学金				連合会費				対前年額	
	2025/11実績		前年同月		2025/11実績		前年同月			
	金額	教会	金額	教会	金額	教会	金額	教会		
北海道	364,817	9	204,021	8	160,796	23,000	2	32,000	3	
東北	329,752	11	240,848	9	88,904	46,000	4	64,000	5	
北関東	598,925	9	594,261	7	4,664	120,000	7	38,000	2	
東京	1,184,574	15	1,521,902	19	-387,328	168,000	10	254,000	11	
神奈川	651,840	10	511,345	11	140,495	148,000	7	163,000	9	
西関東	236,620	5	265,360	6	-29,740	51,000	5	51,000	4	
中部	241,000	5	345,010	7	-104,010	20,000	1	101,000	8	
関西	397,800	13	466,250	14	-68,450	66,000	7	60,000	5	
中四国	645,870	16	707,900	16	-62,030	76,000	8	78,000	7	
北九州	240,600	8	313,910	9	-73,310	68,000	5	12,000	2	
福岡	888,850	17	826,046	17	-37,196	123,000	8	132,000	8	
西九州	277,200	7	471,604	8	-194,404	14,000	3	24,000	2	
南九州	261,400	14	255,000	11	6,400	50,000	10	70,000	10	
個人団体等	236,536	0	300,235	0	-63,699	-	-	-	-	
総計	6,555,784	139	7,123,692	142	-567,908	973,000	77	1,079,000	76	
対前年比	92.0%	97.9%				90.2%	101.3%			

個人団体除く	6,319,248	139	6,823,457	142	-504,209
対前年比	92.6%	97.9%	参考:個人団体等を除く金額です。		

※11月末現在、個人団体等を除く金額です。金額は対前年度比で金額が82.6%（約-56.8万）です。教会数は97.9%（～4教会）です。会費は90.2%（約-10.6万）です。ぜひお祈りに加えていただき金額増加と共に、充実した連合活動のために連合会費へのご協力をお願いします。

## レビ人に倣って教会に仕える

井伊 肇 (日立バプテスト教会 教会主事)

就職のため日立市に来て「バプテスト」という教会を初めて知り、学生時代に通っていた日本福音ルーテル教会から転入して以来、78歳の私は今では一番古参の教員となりました。

私たちの教会は2015年4月から無牧師となり、2016年の定期総会で私が「教会主事」として立てられました。2017年に東京バプテスト神学校に入学し2021年3月に本科を卒業しました。2023年7月に教会からの礼典奉仕委託を受諾し、目に見える形として按手を受けました。これにより教会が目指す「信徒相互の牧会を通して会衆教会を建てあげる」ことを教員と共に体験中です。毎月の主の晩餐と説教を私が2回、もう一人の壮年が1回、さらに毎月1回横浜JOY教会の石田政美・派遣牧師の説教と助言をいただき、更に年数回の連合等からの支援をいただきながら現在に至っています。

現在会員12名と小規模教会ですので、一人で多くを奉仕せざるを得ない状況下、一番時間がとれる私が多くを担っています。教会外からの殆どの窓口、しもべ会(役員会)、総務・財務の支援、教会全般の保全管理などです。小規模教会ゆえに何とかできていると思います。

牧師のような奉仕をしているように見られているかも知れませんが、私の奉仕の原点は「レビ人に倣って教会に仕える」ことです。

旧約聖書に「レビ人」は何度も出てきますが、改訂新版 世界大百科事典によると「古代イスラエルのヤハウェ宗教の担い手であるがその歴史ははつきりしないところがある。」とあり、「レビ人はユダヤ教団でも祭司階級の下に置かれ、教化活動などに携わった。ヤハウェ宗教の民衆史における主役は、終始レビ人であった。」とあります。

教会所在都市の人口減少は全国でも顕著な状況の中で、教員の高齢化に伴う教員自身の課題やその家族の課題、また信仰継承の課題などに向き合いつつ、主から「忠実な良い僕だ。よくやった。」と言われるように、祈りつつ教会に仕えています。

## 【報告】福井教会への協力伝道派遣を終えて

事務局長 稲川 仁 (宝塚教会)

11月15日(土)から16日(日)にかけて、全国壮年会連合の「第1回協力伝道派遣チーム」として、会長の高良、事務局長の稲川、会計の高井の3名で福井教会を訪問いたしました。

土曜日の夜には、福井教会の壮年の方々との「交流鍋会」にお招きいただきました。和やかな雰囲気の中、バプテストの特徴や連合の活動について説明をさせていただくとともに、福井教会が取り組まれている「多様性」への歩みについても詳しく伺うことができ、私たち派遣チームも多くの示唆をいただく豊かな学びの時となりました。

主日礼拝では、事務局長の稲川が証しを、会長の高良が説教を担当させていただきました。また、会計の高井も加わり3名で特別賛美「主はガリラヤへ」を捧げ、共に主を賛美する恵みに預かりました。新しくなった会堂は、講壇がなくフロアがフラットな造りで、キッチンやホールが一体となった開放的な空間となっており、教会の皆様の温かさがそのまま形になったような、リラックスした雰囲気が大変印象的でした。

今回の訪問を通じ、神様の確かな導きと、福井教会の皆様の熱心な宣教の姿に大きな励みをいただきました。温かく迎えてくださった皆様に深く感謝し、これからも心を合わせ、福井教会の歩みを覚えて祈り続けてまいりたいと存じます。



## 専攻科に学ぶ思い

九州バプテスト神学校 専攻科1年 大森 俊明 (熊本南キリスト教会)

私は現在、仕事と家庭、そして教会のはたらきの傍ら、神学校の専攻科で学びを続けています。この度、その「専攻科で学ぶ思い」を分かち合う機会をいただき、改めて自分自身の歩みを振り返りました。

私が専攻科への進学を決意したのは、本科での学びを終える頃でした。正直に申し上げて、その数年間の学びは決して平坦な道ではありませんでした。学びと仕事、家庭、そして教会でのはたらき。それらを同時に担おうとする中で、何度も限界を感じ、壁にぶつかりました。しかし、不思議なことに、苦しみの中を通れば通るほど、「それでも教会に仕えたい」という思いが私の中で強くされて行つたのです。主イエス・キリストの体を建て上げ、その光を社会の中で輝かせるはたらきに加わりたい。その思いがより鮮明になっていきました。しかし私も、そして愛する教会も、信仰においてまだ幼いという自覚がありました。だからこそ、教会と共に、より自立した信仰を持って主の御心を喜ぶ者になっていきたいと願い、そして「この学びの機会は主から与えられたものだ」と確信し、専攻科の門を叩きました。



しかし、実際に専攻科での歩みが始まると、そこには以前にも増して苦しい現実が待っていました。正直に申し上げます。今の私は、私が手にしている全てを担おうとする自分の高慢さを痛感させられ、打ちのめされています。仕事、家庭、教会、神学校。そのどれもが大切であり、おろそかにできません。しかし、すべてを完璧に担うことなど、到底できることではありません。そんな自分の弱さをまざまざと見せつけられる日々は、辛く、重くのしかかってきます。

ところが、その辛さの真っ只中で、より明るく見えてきたものがありました。それは、主によって呼び集められ共に学ぶ仲間の存在です。神学校の先生方、そして共に学ぶ学友たち。彼らもまた、それぞれに困難な状況を抱えながら、それでも主によって支えられ、導かれて一歩ずつ歩んでいます。その姿を見せられ、私は大きな「励まし」をいただいています。それと同時に、教会の兄弟姉妹の「愛」をより強く実感するようになり、その愛の向こう側に主の御姿を見せられる思いがしています。

今、私は主から問いかけられているように感じます。「いつまで、自分の力ですべてを握りしめようとするのか」と。二つの道を、自分の力で完璧に歩もうとする高慢さを手放し、主への信頼によって恐れを捨て、主が示される道へと一歩踏み出すことを、主は待っておられるのかもしれません。

この学びの先に、私は何を思い描いているのか。それは、何でもこなせる「強いキリスト者」になることではありません。むしろ、自分の弱さを知り、その弱さゆえに他者の弱さに寄り添い、共に主に依り頼むことができる「一人の僕」となることです。専攻科での学びを終える時、私は今よりももっと、自分の無力さを見せられているはずです。しかし同時に、主の愛と恵みの完全さを今よりも深く知らされていることでしょう。その確信を持って、地域社会の中に置かれた教会が、本当の意味で人々の光となるための土台の一部として用いていただきたいと願っています。

壮年会の皆様、どうかこの未熟な者の歩みのために、そしてそれぞれの困難の中で懸命に歩んでいる神学生の皆様のためにお祈り下さい。私もまた、皆様と共に、主の御心をこの地に現していくはたらきに喜びを持って励んでまいりたいと思います。

### ＜今後の日程＞

	全国壮年会連合	連盟・神学校	定期発行物
1月	1/24 (土) 第3回奨学金委員会		1/15 (木) エマオ通信 No. 18 発行予定
2月	2/14 (土) 第3回役員会 2/28 (土) 第2回全国壮年会連合・奨学金委員会合同会	2/27 (金) 新任教師・主事研修会 (宣研主催)	2/15 (日) エマオ通信 No. 19 発行予定 2/20 (金) 全国壮年会連合ニュース 140号 発行予定
3月	3/14 (土) 全国壮年会連合オンライン研修会	3/6 (金) - 7 (土) 入学前研修会 (宣教室主催) 3/13 (金) 東京バプテスト神学校卒業式 3/17 (火) 九州バプテスト神学校卒業式・感謝礼拝 3/18 (水) 西南学院大学神学部卒業感謝礼拝	3/15 (日) エマオ通信 No. 20 発行予定

# 教会の未来を拓く新たな一步 全国壮年会連合代表者会議（2025/11/8）開催

事務局長 稲川 仁（宝塚教会）

全国壮年会連合の代表者会議がオンラインで開催され、教会の現状と未来のあり方について率直かつ熱い議論が交わされました。

会議の冒頭、会費納入教会の減少（全体の約48%）や、神学生の激減（2016年の28名から現在は8名へ）といった、連盟全体が直面する深刻な状況が報告されました。この危機感を踏まえ、協議では「60歳からの第3の人生としての牧師養成」や「信徒による説教の重要性」など、従来の枠組みを超えた具体的な提言が相次ぎました。

特筆すべきは、組織のあり方の再検討です。女性連合との協議や、属性によらない組織運営を目指す「検討委員会」の設置が決定され、時代に即した柔軟な形を模索する姿勢が鮮明となりました。また、「献身は特別な人だけのものではなく、日常の小さな献身から連続しているもの」という、全信徒の歩みを肯定する視点も示されました。

オンライン上のブレイクアウトルームに分かれて行われた議論では、「牧師と信徒が共に働きを分かち合い、靈的に支え合う教会の元気回復」といった方向性が、今後の目指すべき姿（案）として共有されました。

2028年の全国壮年会連合結成50周年に向け、まずは来夏のバプテストフェスティバルへの出展準備から活動を加速させます。課題を直視しつつも、「今できることから始める」という希望を持って共に歩む決意を新たにする場となりました。

## 全国壮年会連合 代表者会議 要旨

### 1. 壮年会・神学校の現状（深刻な現状の共有）

- 財政・組織：会費納入教会は約48%と過半数を割り、前年同期比で減収。
- 献身者の激減：全国壮年会連合の奨学金を受給している神学生数は2016年の28名から、2024年は8名まで減少。西南学院の神学寮も定員に対し4名のみと、極めて深刻な状況にある。

### 2. 根本的課題への対策案（協議事項）

- 新たな牧師養成：60歳からの「第3の人生」としての献身・牧師養成の具体化。
- 信徒の役割拡大：牧師と信徒が働きを分かち合う「信徒説教」の教育研修や、オンライン研修の充実。
- 献身の捉え直し：献身を「特別なもの」とせず、日常の小さな献身から連続しているものと捉える視点の共有。

### 3. 組織のあり方と今後の展望

- 属性によらない組織へ：性別等によらない組織運営を目指し、検討委員会を設置。女性連合との協議も進めます。
- 将来のビジョン（案）：「牧師と信徒が共に働きを分かち合い、靈的に支え合う教会の元気回復」を一つの方向性として模索する。

### 4. 主な決定事項・行動項目

- 2028年の結成50周年記念大会に向けた準備開始。
- 来夏「バプテストフェスティバル」への壮年会ブース設置（関西連合中心）。
- 信徒説教講座の開催、および説教動画共有システムの構築検討。

### 【大会報告の記載誤りについてのお詫びと訂正】

第60回大会報告書（73ページ「・・歩み」）において、「2027年度・第62回大会、「大会/場所」神奈川（関東地区と福岡）と記載しておりましたが、開催場所の表記に誤りがあり、正しくは、神奈川/未定となります。関係者の皆さんにご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。

全国壮年会連合 会長：高良 研一（恵泉）、副会長：星 文也（赤塚）、事務局長：稻川 仁（宝塚）

書記：木村 均（大井）、会計：高井 透（高崎）

監査：堤 秀幸（福岡西部）、大城戸 一彦（所沢）

同奨学金委員会 委員長・会計：北村 慎二（宝塚）、総務：浦瀬 佑司（札幌）、返還：鶴澤 寛（鳥栖）

涉外：古田 晴彦（宝塚）、向井田 洋（仙台）

連盟理事：杉山 いずみ（徳島）、神学部長：日原 広志（有田）

事務局 飯野 實（宮原）

神学校献金 振替 00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局



日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務：月、水、金 10:00～16:00・fax: 048-886-7533 <http://www.sonen.net> sonen@bapren.jp